



蒼龍門

1997年に世界文化遺産に登録された水原華城は、1796年に正祖が父の墓を水原に移した時に築城したものです。華城は、防御のための軍事的機能と商業機能を兼ね備えた実用的な構造となっており、「東洋城郭の白眉」と評されています。風水説で東の方角を意味する蒼龍門は、華城の4大門の東門にあたり、城門を保護するために、半月形の甕城が併設されています。また、華城の南北に位置する八達門、長安門とは異なり、防衛上通り抜けられないようにするため、門の一方だけが開かれた構造になっています。甕城の中にある虹蛭門の左の石壁には、工事の担当者と責任者の名前が刻まれています。



世界の地域から 京畿道 水原市 (韓国)



写真提供：水原市

訪花隨柳亭と龍淵

訪花隨柳亭は、水原華城にある4つの角楼（城壁の隅に建てられた楼閣）のうち北東の角楼で、「東北角楼」とも呼ばれています。敵の動態を探るための望楼であり、軍隊を指揮するための指揮所であると同時に、龍淵（写真手前に見える池）や水原川などの周辺景観と調和していることから、水原華城の建造物の中でも特に美しいと評価されています。ほかの城郭には見られない独創的な建造物で、18世紀の優れた建築技術を示す遺跡です。